

荒川三山&赤石岳山行報告

【山行日】 2017年 10月 6日～9日(金～月)

【集 合】 岩舟支所P AM 8:30

【費 用】 マイカー1台 : 35,500円

【メンバー】 CL:鈴木 石川、岩渕、小松原関、香川

6日 曇り後雨 岩舟支所から畑薙第一ダムPまで行き、リムジンバスで榎島ロッジへ

岩舟支所P8:30＝白鳥食堂 11:20/12:20＝畑薙第一ダムP14:20/15:00＝榎島ロッジ 15:50

南アルプスの山はアプローチが長く、登山口の榎島ロッジまで行くだけで丸1日掛かってしまう。



岩舟支所を8時30分に出発し、東北道から圏央道、東名高速を乗り継ぎ新静岡ICで降り県道27号線を北に進む。コンビニで2日目の昼食や行動食を調達したついでに、今日の昼食の食堂を教えてください。「白鳥食堂」という響きが良い名前に魅かれ、昭和レトロのひなびた食堂で昼食を摂ることにする。店に入るとおでんがくつつと煮えており、「静岡おでんだ～」とK川さんは大喜び。何を食べても1本80円のおでんの好きなものを取り、特製味噌だれを付け

ていただく。皆さん好きなものを取り、皿に取って熱々をいただく。チャーハンやカツ丼、天ぷらそばなどもオーダーしたが中々出てこない。奥さんが一人で1品ずつ調理するので、出てくるまでかなり時間が掛かった。それでもK川さんは気に入って、写真を撮りまくっていた。昼食が済んだら、畑薙第一ダム駐車場を目指し車を走らせる。玉機橋を左折して安倍川を渡り、そのまま直進して県道189号線を進み井川へ向かう。大井川鉄道井川駅前を通り、集落を過ぎると急な山道を蛇行しながら走る。白樺荘を過ぎると畑薙第一ダムは近くなり、ダムの手前の臨時駐車場に車を止める。トイレを済ませ準備を整え、雨が降っているのので車の中で3時発のバスを待つ。



10分前にバスが到着し、傘を差してバス乗り場に向かう。乗車券を買い東海フォレストのリムジンバスに乗り込む。このバスには東海フォレストが管理する山小屋を利用する者しか乗車することが出来ない。雨の中デコボコの悪路を1時間揺られ、榎島ロッジに着く。受付を済ませ部屋に案内され、2部屋だが真ん中のふすまが無く6人で1部屋のような。荷物を整理したら風呂に入り、風呂から上がった部屋で宴会が始まる。宴会の途中夕食の時間になり、お酒を持参して食堂に向かう。食堂は数人しか食事をしてなく、「これじゃあ明日の千枚小屋はゆったりと寝られるね」と喜んでいて。ゆっくりとお酒を飲みながら夕食を楽しみ、部屋に戻ったら少しお話しして早めに床に就く。

7日 雨後曇り 榎島ロッジから清水平・駒鳥池を経由し千枚小屋へ

榎島ロッジ 7:05～奥西河内吊り橋 7:35～小石下 9:00～清水平 10:50～見晴台 11:55/12:30～

駒鳥池 13:20/13:30～千枚小屋 14:25

朝起きると予報通り雨が降っている。出発を1時間遅らせ、朝食を6時にいただき雨具を着て7時に出発する。今回の山行は昨日と今日は雨の予報だが、明日の予報は快晴なので決行することにした。下山後の着替えや温泉グッズをロッカーに預け、奥の神社の脇から斜面を登るとバスで通って来た林道に出る。林道を右に進み数分歩くと滝見橋で、橋の手前を左手に入っていく。沢沿いに栈道を通り、トラバース道を落石に注意しながら進む。レインウエアーを着ているので暑い、落石の危険が無い箇所まで我慢して歩く。奥西河内の吊り橋を渡り、広葉樹の中をトラバース気味に登り、尾根に出た所で小休止し衣服調整をする。緩やかな道から急登に変わり、登り切ると林道に飛び出す。林道出合で大休止



し、行動食や水分を補給する。雨は小降りになり、空も明るく時折薄日が差すようになる。林道を少し右に進み、ハシゴを登り登山道を進む。山腹を一登りすると、広葉樹が多い明るい小石下に着く。ここから緩やかな道を登ると林道に出て、雨も上がったようなので小休止してレインウェアを脱いだ。針葉樹と広葉樹の混交林をトラバース気味に歩き、少し登ると水場のある清水平に着く。山腹から湧き出す水は美味しく、休憩を取って行動食と水分を補給する。ここからも緩やかな登りが続き、展望のきかないオオシラビソの

林に変わっていく。やがて湿った感じの窪地に出て、ここが蕨段と言われる湿地である。さらにトラバース気味に進み、伐採地跡に出ると見晴岩の標識がある。I渚さんが「ここでお昼ご飯を食べると良いじゃない」と提案し、「予定はこの先だったが、12時になるのでここで食べよう」と見晴岩に登りランチタイムとする。岩は小さいが平坦で広く、展望がありベンチもあるので昼食には丁度良い場所だ。

ネギとキャベツたっぷりの塩ラーメンは美味しいと好評だったが、K原さんはグルテンアレルギーで食べられず持参したスアマと大福を食べていた。後から登って来た人の話では、今朝畑薙ダムからの一番バスは4台出たのでかなりの人数が登って来るとのことだ。ゆったり寝られると思っていたが、今宵の千枚小屋は混雑するようだ。昼食が済んだら登山道に戻り、千枚小屋を目指す。駒鳥池までもなだらかな尾根道が続き、シラビソの深い森の中を登って行く。やがて駒鳥池の標柱が立つ場所に出て、荷物を置いて右に少し降りると苔むした駒鳥池に出る。シラビソの森に囲まれ苔に覆われた池は、神秘的で妖精が出てきそうな雰囲気包まれていた。駒鳥池を後にしてシラビソの原生林を進むと、やがて鞍部のような場所に出る。ここまで北に向かって登った登山道は、ここから西に向かって登るようになる。



尾根の南側を登るようになり、急な坂道を頑張って登ると明るく開け千枚小屋に着く。小屋の前からは明日登る赤石岳や富士山が見えるが、今日は見る事が出来ない。小屋で受付をすると「今日は混雑します」と言われたが、到着が早かったので下の部屋の良い場所に案内された。レインウェアやザックカバーを干し、着替えが済んだら外のベンチで宴会が始まる。ビールやお酒を飲みながら、雨の中頑張った事や明日は晴天の中悪沢岳と赤石岳に登れる期待で話が盛り上がったが、急に雨が降ってきて水を差された。場所を軒下のベンチに移動して飲んでいると、夕食の案内があり食堂へ移動する。

夕食が済んでから明日の出かける用意をし、玄関のベンチでしばらくお話をして過ごした。

朝食の弁当を受け取り、皆さんに配ってから明日に備え早めに床に就いた。

8日 快晴 千枚小屋から千枚岳へ登り、丸山でご来光を拝み悪沢岳・中岳を踏破し、荒川小屋から大聖寺平を経由し南アルプスの盟主赤石岳山頂をを極め赤石小屋へ下る。

千枚小屋 3:55～千枚岳 4:45/4:55～丸山 5:40/5:55～悪沢岳 6:15/6:35～中岳 7:35/7:50～荒川小屋 9:00/9:15～大聖寺平 10:10～小赤石岳 11:20～分岐 11:40～赤石岳 12:00/12:15～分岐 12:30/13:00～富士見平 14:25/14:40～赤石小屋 15:00

夜中の1時にトイレに起き、外に出ると月明かりに照らされた富士山がとても美しく聳えていた。今日は天気予報通り、快晴の登山日和を確信し布団にもぐり込む。3時前に起床し、荷物を纏めたら玄



関のベンチで朝食の弁当を食べる。靴を履いたら外に出て、ストレッチを済ませて出発する。来た道を少し戻ると千枚岳への標識があり、左の登山道をヘッドランプを頼りに登って行く。ダケカンバの並木みちと言われる平坦な場所を通り抜け、折り返すように登るとすぐに分岐に出る。千枚岳へはそのまま直進し、森林限界を超えた所で小休止し衣服調整をする。ここからざらついた急登になり、冷たい風を受けながら登り切ると千枚岳山頂に着く。山頂からは360度の大展望が得られるが、まだ暗くて見えない中で富士山だけは月明かりではっきりと見えていた。千枚岳からは岩場のヤセ尾根を下る

ので、ヘッドランプを頼りに慎重に降りて行く。丸山への途中で明るくなり、「丸山でご来光が見られるね」と話しながら登って行く。ロープやハシゴが設置された岩場を慎重に下り、急斜面のトラバースも道を踏み外さないよう注意して登る。やがて岩礫の平坦な道を歩き、ジグザグに登って行くと平坦な山頂の丸山に着く。東の空が赤く染まり、間もなく日の出を迎えるので大休止する。皆さん思い思いにご来光の写真を撮り、朝日に照らされた悪沢岳や赤石岳に感動する。ここから道の様子が大きく変わり、歩き易かった小礫の道から大きな岩が積重なった道を歩くようになる。岩の上は所々凍っており、不用意に足を置くとスリッパし危険だ。大きな岩の間を縫うようにして登り、南北の大きな尾根が迫れば日本で6番目の高峰「悪沢岳」山頂に着く。これ以上無い晴天に恵まれ、山頂からの大パノラマは生涯わすれることの出来ない思い出になるだろう。ここから荒川三山の2座目「中岳」に向かうが、岩場と砂地が混在する急な下りだ。



つまりいてバランスを崩さないようにゆっくりと最低鞍部まで下る。鞍部から岩尾根を登るようになるが、展望を楽しみながらゆっくり登ると中岳避難小屋に着く。避難小屋のトイレを借りようとしたが、女性用は鍵が掛かり使用できない。トマトやゼリーをいただき、避難小屋のすぐ後ろにある中岳山頂に向かう。中岳山頂からも展望を楽しみ、南にドツシと構えた赤石岳を見ながら「次はあの山に登るんだね」と気合を入れる。ここから荒川小屋へ向かうが、途中の前岳は登らずに通過する。前岳分岐から南へ下り、カールの縁の小尾根を越えると前岳南東斜面のお花畑に入っていく。この時季花は咲いて無いが、草



紅葉の広大な斜面は素晴らしい。草紅葉の斜面を下って行くと、トラバース気味に下るようになり、ここから小屋までは紅葉が素晴らしい。紅葉の中に荒川小屋の赤い屋根がアクセントとなり、写真に何枚も納めた。紅葉のトンネルをくぐりながら下り、荒川小屋に着くと大勢の登山者が休んでいた。我々も奥のベンチで大休止し、トイレを借りリンゴを食べ疲れた体を休める。荒川小屋から少し急坂を登ると大聖寺平へのトラバース道となりとても気持ちよく歩ける所だ。広くのびやかな稜線の先に、赤石岳が望めいかに南アルプスらしい雄大な景色だ。ハイマツがまばらに生え、広々とした大聖寺平は休憩に適した場所だが、少し頑張って「だまし平」まで行く。ここで休憩し菓子を食べながら景色を楽しむと、

K原さんが「ここからの荒川三山の展望が一番良いと書いてある」と言っていた。ここから小赤石岳の肩までは、九十九折れの急登で一番つらい登りだ。肩に出るとなだらかな稜線歩きとなり、地図に「稜線の空中散歩」と書いてあるスカイラインを歩き小赤石岳山頂に着く。ここら辺からガスが湧いてきて、時折赤石岳がガスで見えなくなる。小赤石岳から下ると赤石小屋への分岐に着く。分岐にザックをデポし、カメラと水、ご褒美のリンゴを持って赤石岳山頂を目指す。分岐から山頂までは登り15分で着く。南アルプスの盟主「赤石岳」に登頂出来、皆さん笑顔で握手する。山頂の標柱前で記念写真を撮り、眺望を楽しみながらリンゴをいただく。IさんとSさんは、赤石岳避難小屋まで降りてトイレを借りる。眺望を



楽しんだ



ら分岐まで戻り、ランチタイムにする。ランチは味噌ラーメンを作り、パンと一緒にいただく。昼食後のお茶が美味しく、渴いたのどを潤してくれる。分岐から小尾根を下り、赤石小屋を目指す。滑りやすい急勾配の道を下ると黒い岩盤の沢に着く。滝のように流れる水は水場となっており、小休止して水を補給する。この先はラクダの背と呼ばれる尾根の南側をトラバースして下り、いくつも

の栈道を越えて行く。谷側は紅葉に彩られ美しいが、岩と栈道のアップダウンの道で楽しむ余裕は無い。樹林帯の緩やかな登りになると、ハイマツに覆われた富士見平に着く。最後の休憩を取り、リンゴを剥いていただく。ここから二班に分けて下り、先発隊は先に小屋に着き受付を済ませる。早い到着のよう下りの段の部屋に案内され、着替えと荷物を整理したら外に出て宴会が始まる。小屋の営業は明日で終わるので、缶ビールやジュース類は半額で購入でき超ラッキー！！ロングトレイルを歩き切った達成感と、大きな山を2座登頂出来た喜びでお酒が進み話も尽きなかった。宴会途中で夕食の時間になり、そのまま食堂に移動して夕食をいただく。夕食が済むと皆さん疲れたようで、お話しすることも無く床に就いた。

9日 快晴 赤石小屋から榎島ロッジへ下り、入浴後リムジンバスにて畑薙第一ダムPへ行き、車に乗り換え静岡市の海鮮食家『福一丸』で昼食と買い物をして岩舟支所へ

赤石小屋5:50～榎島ロッジ8:20/10:20＝畑薙第一ダムP11:20/11:30＝福一丸13:20/14:20＝岩舟支所P18:50

朝食も一回目の朝食で5時から食べられ、榎島へ下る時間に余裕ができた。トイレを済ませストレッチを行い、小屋の前で記念写真を撮って出発する。

今日も快晴の天気恵まれ、小屋の前から赤石岳と聖岳の展望が素晴らしい。赤石小屋からは、大倉尾根の南西側をトラバース気味に下って行く。

やがて尾根上の道を下るようになり、小ピークを越え2325m地点まで緩やかに下る。ここからは針葉樹林帯の急な下りが続き、聖岳が見える小広場で休憩を取る。ここからも針葉樹林帯の急坂が続き、樺段を過ぎた所で2回目の休憩を取る。尾根上の急坂を下ると、道はやがてカラマツの植林帯を九十九折れに下るようになる。下に林道が見えるようになり、鉄の階段を降りると林道



に出る。左に少し行き樫島ロッジへの道路を右に曲がり、すぐ左に近道の山道を下りて行くとロッジ奥の神社脇に出る。予定よりも1時間早く下山出来、バスの時間までかなり余裕がある。ロッカーに預けた荷物を出し、レストハウスで帰りのバスの乗車券をもらいシャワー券を購入する。レストハウス脇のベンチで荷物を整理し、着替えと温泉グッズを持ってシャワー室に向かう。今日はシャワーだけでなく、風呂も使用できゆっくり湯船に浸かることが出来た。3日間の汗を流しサッパリしたら、レストハウスでジュースや土産を購入する。下山者がどんどん増えバスを待つベンチから溢れ、芝生のベンチやレストハウスのテラスも大勢の人で賑わってバスは4台出るようだ。予定より10分早くバスが来て、我々は2台目のバスにのぼる乗ることが出来た。

今日は天気が良いので周りの景色が良く見え、運転手が所々バスを止め説明してくれた。畑薙第一ダム駐車場に着き、車に乗り換え静岡市の海鮮食家「福一丸」に向かう。「福一丸」は船元直営のすし店で、世界の海で獲れた新鮮な魚貝を安く提供する人気店。

1時過ぎに訪れたが満席で、名前を書いて待たされる。20分ほど待たされ、2階のテーブル席に案内される。好きなものをオーダーし、美味しい寿司を食べ至福のひと時を過ごしたら隣接する直売店でお土産を購入する。皆さん沢山のお土産を購入し、K原さん



が買ったミカンを皆さんに分けてくれた。緑色の見るからにすっぱそうなミカンで、誰も食べなかったがK原さんが食べ「甘い～」と云うのでIさんが剥いて食べたらすっぱかった。「当たり外れがあるのかも」と一人ずつ剥いて、食べ比べたがどれもすっぱく皆で大笑い。そんな話で盛り上がり、渋滞があったが眠くならず運転でき無事に岩舟支所に帰着した。3000m峰3座を縦走する今年一番のビッグ山行を踏破し、皆さんの記憶に残る充実した山行を堪能できた。